

## ウズベキスタンとの新たな絆

野口 観道

ウズベキスタンとアフガニスタンとの国境の市、テルメズ郊外のカラ・テパ仏教遺跡での即興演奏の音色が、「絆」と「平和」を祈りつつ国境を流れるアムダリヤ川を越えていく。

ウズベキスタンとの「国交20周年音楽のシルクロードツアー」の一行は、タシケント、ブハラでの大学や音楽家との交流と演奏会を終え、バスに5時間余り揺られブハラからサマルカンドに到着した。サマルカンドは、『青の都』、『東方の真珠』などの異名を持つ、シルクロードの十字路に位置するイスラムの色彩の濃い古都である。

世界遺産のレジスタン広場での合同演奏会の開催という悲願に、多大な努力と労苦を集集された関係者の夢が実現した当日の演奏会が魅つてくる。

ウルグベク・メドレセの建物に足を踏み入れると、多くの聴衆で会場は熱気が漂っていた。開会行事を終え、待ちに待った演奏会が始まった。ざわめきを鎮めるような尺八の重厚な音色が建物に反響する。切れ味鋭いバチさばきで、津軽三味線の乾いた糸から奏でる音が胸を打つ。琵琶の物悲しくも切ない弾き語りからは、祇園精舎の鐘の音が聞こえる。

タイムスリップした邦楽の世界に横笛とネパールのバンスリの音が共鳴し合う。ネパールの打楽器、タブラを巧みに操る指さばきに魅せられる。ブハラの民族音楽と民族舞踊をしなやかに舞う女性との共演は、シルクロードの情景を彷彿とさせる。ブハラの演奏家と日本の演奏家とのセッションでクライマックスに達すると、聴衆からの手拍子が大きくなうねりとなり演奏家と一体となった。

陽が沈み、ライトアップされたワインカラーが広場を包み込んだ一瞬、尺八奏者が東日本大震災の復興を願い作曲した「絆」の曲が合同で演奏されたその時、上空に一斉に飛び立ち周回した鳥たちが、歓喜のさえずりをひとときわ高く響かせたのである。

サマルカンドのレジスタン広場が青く光輝く時、それは旅の終焉であり、ウズベキスタンとの新たな絆の序章であった。